

薬用作物の栽培を始めてみませんか？



薬用作物の産地化に向けた取り組みを進めています

高梁市は、耕作放棄地対策のひとつとして、障がい者施設や農家などとともに、薬用作物の産地化に向けた取り組みを進めています。

わが国の漢方製剤・生薬の原料として、特に有望な「ウルルカンゾウ」については有漢地域で、「薬用シクヤク」・「ミシマサイコ」を中井地域で、それぞれ実証栽培を始めています。

薬用作物栽培に興味のある人や、耕作放棄地の有効活用を検討している人は、農林課へ問い合わせてください。

問 農林課 ☎(21)0223

ウルルカンゾウ

(マメ科カンゾウ属)

万能薬であることに加え、甘味が砂糖の50倍。医薬材料の他に、食品の甘味料、化粧品などに利用されています。国内生薬での使用量が最も多い。ほとんどが中国からの輸入。高梁市はカンゾウ栽培の実証実験と生産物取引について、医薬関連企業と提携しています。



薬用シクヤク

(ボタン科ボタン属)

朝鮮半島、中国などに分布する多年草。国内生薬での使用量はカンゾウに次いで2番目。中国からの輸入がほとんど。乾燥した根の成分は、鎮痛、収斂作用などに効果があり、葛根湯など多くの漢方薬剤に処方されています。



ミシマサイコ

(セリ科ミシマサイコ属)

本州から四国、九州の山野に自生する多年草。現在は生薬の原料として栽培され、根を収穫します。解熱、鎮痛作用があり、多くの漢方薬剤に処方されています。



カンゾウを作る

農事組合法人うかんハーブ

おつきたかゆき
大月孝之さん(73・有漢町有漢)

農業は素人ですが

市がウルルカンゾウを栽培する場所や団体を探しているという話を聞き、私たちが手を上げたのは、平成27年の夏のことです。私を含め仲間の何人かは元々農業をしていませんでしたが、そんな農事組合法人の組合員5人で約1ヘクタールの畑にカンゾウを定植しました。最初の苗を植え始めたのは4月でしたが、最後の定植は7月になってしまいました。

また、有漢町内の福祉施設「ワークネットうかん」で1年半前に植えて栽培されたカンゾウの



根の収穫作業をうかんハーブで受託し、今年の1月に初めての収穫をしました。大きな根を収穫する作業は大変ですが、仲間と工夫して、やり遂げることができました。

楽しい、やりがいを感じる

軽量作物とはいえ農業使用の制限があるので、雑草管理や害虫防除が思っていたより大変です。雑草の管理については、畝の作り方やマルチの張り方など、新しい方法をいろいろ考えて試して行かなくてはなりません。それでも、やっていくうちにより良いやり方も見つかり、なんとかなるのではないかと、楽観的に考えています。新しいことを研究するのは楽しいし、やりがいを感じますね。

市は専門の担当者を設置して

ビジネスとして未来がある薬用作物ですが、私たちだけで進めていくには不安があるので、市は専門の担当者を置いてほしいですね。これから参入してくる人たちも、安心して入ってこれると思います。

シクヤク・ミシマサイコを作る

生薬生産団体「方谷の里」

こまへしろう
小前四郎さん(79・中井町西方)

きっかけはテレビ番組

過疎化や耕作放棄地の問題に危機意識を感じていた平成24年、他県の中山間地域で薬草栽培をしているというテレビ番組を見て、地域の長寿会で「ウチでもできないか」と検討をはじめ、2年後の平成26年から実現化に向けて動き出しました。

二十年前、中井では農協(現在のJAびほく)主体で薬草栽培をしていたこともあったのですが、海外からの輸入が増えたことで栽培が途切れていました。私たちは今回、いくつかの紆余曲折を経



て、大阪の漢方薬卸メーカーと取り引きできることになりました。

高齢者でも扱いやすい作物

昨年春、6人の仲間で7アールの畑にミシマサイコを、秋には8アールの畑に薬用シクヤクを植えました。無農薬栽培のため草取りはそれなりに大変ですが、これまで特別に苦労したということはありません。高齢者でも扱いやすい作物だと思っています。

シクヤクの花が咲く季節はとてもきれいです。また、薬用植物には獣害が少なく、イノシシの足跡があっても、作物を荒らされたことは今のところ一度もありません。

地域になにかを残したい

「中井になにかを残さなければ」「そのための基盤を、自分が元気なうちに作っておきたい」という思いがあります。薬用植物の国内生産を増やすこと、そして地域を元気にすること、この2つの社会貢献ができるように頑張っています。